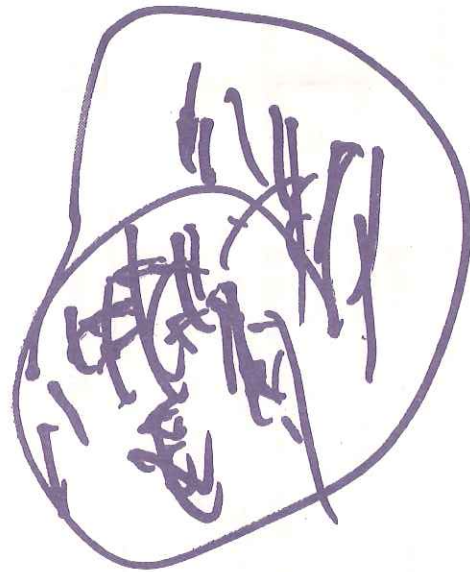




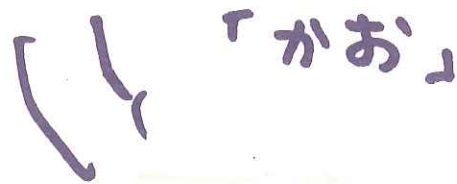
働こう障害者も 働けるんだオレたちも こぶしだより

企画：社会福祉法人 こぶしの会
発行責任者：藤田勝春
編集責任者：田澤幸子
発行所：障害者団体定期刊行物協会
(〒157-0073)
東京都世田谷区砧6-26-21
定価 100円



もくじ

- ①社会福祉法人こぶしの会長期計画
策定委員会の中間報告… 2・3ページ
- ②平成13年度の総括と課題… 4・5・6ページ
- ③保護者… 7ページ
- ④掲示板… 8ページ



けやき作業所 信賀 浩行

社会福祉法人
こぶしの会

●法人事務局 こぶし作業所・生活支援センター

☎321-0902 栃木県宇都宮市柳田町1401
TEL 028 (662) 1911 FAX 028 (662) 1912

●けやき作業所
●デイサービスセンター

☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244
TEL 028 (687) 1040 FAX 028 (677) 5789

●第2けやき作業所
●県東ライフサポートセンター

☎321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町稲毛田1532
TEL 028 (677) 0495 FAX 028 (687) 4818
TEL 028 (687) 0311

●グループホーム
こぶしのときわ荘

☎321-0954 栃木県宇都宮市元今泉6-14-20
TEL 028 (662) 5533

●グループホーム
すずらんの家

☎321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2305-2
TEL 028 (677) 4430

社会福祉法人こぶしの会長長期計画策定委員会の中間報告

昨年八月に策定委員会(石橋俊一委員長)を設置し、その後第三回まで開催されました。現在の主要な課題は、アンケート結果で把握された①利用者②保護者③職員のニーズを、主に調査結果について簡単に報告します。

経過

| | |
|-----------------------|---|
| 平成一三年 八月 五日 | 第一回委員会 策定委員会設置要綱(案)の検討・委員長・副委員長の選出・これからの進め方 |
| 平成一三年一〇月二六日 十一月三〇日 | 利用者・保護者・職員アンケート調査 |
| 平成一三年 二月 三日 | 第二回委員会 アンケート結果の分析 |
| 平成一四年 一月 一九日 | 社会福祉法人こぶしの会全職員集会(アンケートの結果をどのように受け止めるのか) |
| 平成一四年 二月 一〇日 | 第三回委員会 アンケート結果の分析 |

調査結果の概要

◆調査方法は

- ① アンケートによる、利用者・保護者・職員全数調査
 - ② 利用者については、調査票を手渡し、自記式と職員複数又は保護者聴き取りによる他記式を併用した記名調査
 - ③ 保護者については、郵送による無記名調査
 - ④ 職員については、手渡しによる記名調査
- ◆調査対象及び回収率は
- 利用者アンケート 調査対象者一〇一名 回収

率六八%(こぶし三三名 けやき二〇名 デイ九名 第二けやき七名) 有効回答率五〇%

・保護者アンケート 調査対象者一〇一名 回収率五一%(こぶし二五名 けやき八名 デイ五名 第二けやき八名 不明五名)

・職員アンケート 調査対象者三二名 回収率九七%(こぶし一四名 けやき一六名)

◆調査結果分析の視点は、法人の理念

①利用者にとって、人間の基本的権利としての労働を保障できているのかー作業内容、工賃、環境、

規定、安全衛生、緊急時の対応、一般就労支援等から分析

②利用者の地域生活を支援できる作業所になっているのかー個別支援、家族支援、日常生活支援等から分析

③利用者の人間としての豊かな発達は保障できているのかー個別支援、作業所プログラム、地域資源開発等から分析

④利用者や職員の対等性は保障されているのかー利用者の自己決定・選択、自治会活動、職員の専門性等から分析

⑤職員の働きがい、人間としての豊かな発達は保障できているのかー労働条件、管理運営、教育・研修等から分析

⑥地域の共有財産としての作業所になっているのかー社会資源としての作業所、利用者・家族・職員・地域住民が参加する法人、施設の管理運営から分析

◆策定委員会のこれから

今後、策定委員会は、利用者・保護者・職員への直接的な聴き取りを実施し、いよいよ計画策定に入ります。当初、この委員会は一三年度に終了することになっていましたが、一五年度の制度改革を視野に入れて、一四年度にまたがって、じっくり取り組むことになりました。多忙を極める委員さん方も快く、むしろ積極的に任期の延長を承諾してくださいました。

社会福祉法人こぶしの会の理念をどのように具体化していくのか、厳しい調査結果を受け止めて正念場を迎えています。

作業所に通うこと・作業は、楽しい。でもいろいろと注文もある！

◆調査結果 ①利用者と保護者のニーズは、

| 項目 | 利用者のニーズ | | 保護者のニーズ | |
|--------------|---|---------|--------------------|-------|
| | 内容 | 割合 | 内容 | 割合 |
| 作業全般 | 楽しく作業している | 82.0% | | |
| 作業内容 | 今までと違う仕事をしたい | 30.4 | 仕事内容に満足している | 20.0% |
| | 作業所以外で働きたい | 16.7 | 作業所以外のところに就職させたい | 2.0 |
| 工賃 | 不満である | 55.7 | 給与額の決定方法を説明してほしい | 7.0 |
| 労働環境 | 環境改善希望 | 52.5 | 施設や設備に不満がある | 33.0 |
| 安全衛生 | 職員を増員してほしい | 29.0 | 働く環境をよくしてほしい | 40.0 |
| | | | 職員を増やしてほしい | 30.0 |
| 福利厚生等 | 給食をおいしくしてほしい | 41.9 | 仕事以外でも作業所の行事が豊かである | 22.0 |
| | 行事やプログラムを増やしてほしい | 38.7 | | |
| | 勉強を教えてほしい | 22.5 | | |
| | 作業所の日課が楽しい | 78.0 | | |
| 地域生活支援 | 作業所以外で助けを必要とすることがある 外出の付き添い 人と知り合う機会 技術や勉強を教えて | 45.9 | 作業所以外必要な援助 | |
| | | | 緊急一時のショートステイ | 53.0 |
| | | | 土・日の日中預かり | 38.0 |
| | | | 福祉サービスの情報提供 | 27.0 |
| | | | 身辺処理の援助 | 23.0 |
| | | | 現在最も困っていること | |
| | | | 家族の健康問題 | 21.0 |
| | | | 将来に向けての不安 | 84.0 |
| | | | 親亡き後の本人支援 | 25.0 |
| | | | 子どもの生活の場の選択 | 11.0 |
| 親の高齢化 | 11.0 | | | |
| 将来の生活の場 | 家族と同居 | 37.7 | 今のまま家族と暮らす | 52.0 |
| | グループホーム | 21.3 | 気のあった仲間と暮らす | 30.0 |
| | 一人暮らし | 16.4 | どうしたらよいかわからない | 17.0 |
| | 生活施設 | 0 | 生活施設 | 4.0 |
| 人間としての豊かな発達 | 休日の過ごし方 | | | |
| | テレビをみている | 65.6 | | |
| | 家の中で過ごす | 47.5 | | |
| | 自治会活動でとりくみたいこと | | | |
| 利用者との職員との対等性 | 行事についての話し合い | 53.8 | | |
| | 結婚・恋愛についての話 | 46.2 | | |
| | 職員に対していいと思うところがある | 62.3 | | |
| | 直してほしいと思うところがある | 42.6 | | |
| 職員の専門性 | すぐ怒らないでほしい | 52.2 | | |
| | 細かいことまで指示しないでほしい | 30.4 | | |
| | 職員がいるので作業所に通うことが楽しい | 56.0 | 保護者の職員への希望 | |
| | | | 話しかけやすい雰囲気 | 40.5 |
| | | 連絡を密にして | 31.0 | |
| | | 相談にのって | 23.8 | |
| | | 情報の提供 | 23.8 | |

②職員が考える職員の役割と働きがいは

| | |
|------|--|
| 役割 | 利用者個人々人への支援、利用者職場集団づくりへの援助、就労支援・仕事の開拓・営業・授産収入の維持、作業環境づくり、関係機関との連携、情報提供、将来の生活への見通しと実現への支援、保護者との連携 |
| 労働条件 | 処遇内容が低い、ゆとり感がない、犠牲感が強い |
| 管理運営 | リーダーシップが発揮されていない、企業的思考がない、情報伝達が不十分 |
| 働きがい | 充実感がない、ルーチンワーク化している、教育不足 |

平成一三年度の 総括と課題

各事業所の一年間をふりかえって

こぶし作業所より

- こぶし作業所
- グループホームときわ荘
- キッチンセルフ
- 生活支援センター

(こぶし作業所)

措置制度から利用契約制度への大転換を二〇〇三年度に控え、利用者の権利・発達を保障するためにこぶしの会も新長期計画策定委員会の発足、法人全職員集会の開催などと新たな一歩を踏み出しています。その中で開催されたこぶし作業所の年度総括会議では、以下の課題・基本的なテーマが明らかにされました。

- ① 障害の重い利用者への支援を実現する意識的とりくみ
- ② 高い工賃保障・自己実現労働支援のための仕事の開拓
- ③ 当事者活動支援のための方法論・技術の獲得
- ④ 地域生活支援のための社会資源の開発
- ⑤ 専門性を獲得する職員集団の形成



▲こぶしまつりの模擬店でのひとコマ。
お腹がすいた！



▲リサイクル作業、2人ペアで力が入ります。もっと缶をつぶして給料アップだ！

これからは正に利用者には選ばれる施設となるわけですからこぶし作業所の力量が問われます。利用者に満足していただける施設を目指して、上記課題・基本的なテーマをもとにいま、来年度の事業計画を検討しています。

(グループホームときわ荘)

グループホームときわ荘では、今年度から新しく介護専門学校の新学生アルバイトの協力を得ることができ、毎日交代で作業所職員が泊まる体制がなくなつて、スタッフの体制が固定されました。メンバーも意欲的にバス通勤にチャレンジし、自主通勤まであと一息です。年度前半は、世話人が不慣れなためか全体的に落ち着かず、夏には家庭で過ごすメンバーが増え、ときわ荘で生活するメンバーが独りになつてしまう事態も起こり、「豊かな暮らし」を提供することの難しさを痛感しました。そんな中、ボランティアの小林さんには、毎週火曜日は、おいしい手料理を届けていただき、おかげ様でメンバーの体重は、増える一方？

試行錯誤の繰り返しで、一年間が過ぎ去ってしまった感じがありますが、私自身とても勉強になり有意義に過ごさせていただきました。

(キッチンセルフ)

とちぎ福祉プラザのグランドオープンと半年間の

実績をふまえ、専任職員の配置・仲間の増員を行いスタートしました。今まで働いていた人が力をつけ、仕事に幅が出た分、新しい人との間で混乱もありましたが、役割分担をすることで一人ひとりの仕事はつきりし、時間や数で区切ることでできない複雑な仕事をこなしてきました。売上の面では出前の工夫や、土曜営業などで一定のペースでもでき、働く喜び、充実感を得、意欲となっています。仲間の成長から、この仕事の良さを改めて確認（多くの人と接し自信をつける）できた一年でした。

課題としては、さらなる売上のアップと仲間の給料保障です。一般就労で一五万円の給料をもらっていた人もいて、厳しい意見もたくさん出ています。お客さんのニーズを大切に、サービスの質の向上を目指して、こぶしらしさを失わず求めています。と思っています。

（生活支援センター）

当こぶし作業所にて、知的障害者生活支援センターが年度後半の一〇月一日から設置され、その事業が開始してから早半年が経過しようとしています。この半年間の業務を振り返り、痛切に感じたのは「生活を支援する」という業務内容の持つ幅広さ、奥深さについてです。

寄せられる相談事や悩み事の内容は、ご本人の生活の形態によっても様々であり、またその方がどのような生活をこれから望まれるのかということに

よっても、支援の内容や方法は異なってきます。日中は家庭訪問等が多く、外に出ていることも多いため、なかなか仲間や保護者の方と接する機会がありませんが、今後はこぶし関係者だけでなく、広く地域の方に支援センターの存在や機能を知ってもらうことが必要だと考えています。



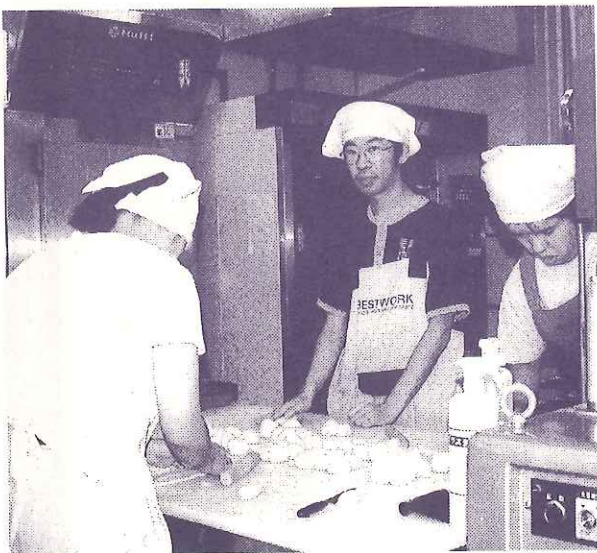
けやき作業所より

- けやき作業所
- デイサービスセンター
- 第二けやき作業所
- ライフサポートセンター

（けやき作業所）

今年度、けやき作業所は地域で暮らせるだけの賃金保障をめざして支援を行ってきました。自主製品のパン製造では昨年末より売り上げが月額一〇〇万

を超したこともあり、利用者の方、職員も益々自信がついてきたところです。さて、けやき作業所では平成一〇年に認可されてから三年の間特に、一般就労に力を入れてきたところです。昨年の一二月に二名の利用者が地域の「芳賀町ふるさと交流体験センター、友遊はが」に就職し、地域に出ていかれた方は一〇名をこえました。しかし一名の利用者はけやき作業所に通うようになってから最初の希望が「うどん屋さん」と決めていたこともありましたが、実際には個人別支援計画書には計画されていなかった現実があります。このことから、またこぶしの会長期策定委員会の仲間の要求アンケートにも出てきしっかりと受けとめ連携した支援ができるようにしていこうと先日の会議で確認したところです。



▲今日もおいしいパンをつくっています。

(デイサービスセンター)

今年度のデイサービスセンターは、利用者の方にとって少しでも活動に対する見直しを持ちやすくするため、一週間の流れを曜日ごとにパターン化して取り組み、一日の中でも午前を文化的活動、午後を労働活動としてきました。

活動の内容は利用者とは相談し、心に残る活動を目指してきましたが、外出の取り組みでは買い物だけに集中してしまうことがありました。そこで外出の目的を印象づけるために、二月のサーカス見物を皮切りに一日外出を継続的に実施することとなりました。そして外出するだけにとどまらず、絵の表現によるフィードバックを行い、やがては絵画展まで発展できれば……と考えています。事実サーカスの絵画表現は素晴らしい作品揃いでした。



▲仕事の山。たくさんつくっています。

また、作業場面の取り組みとして牛乳パックを利用した紙すきハガキづくりを行ってきましたが、ハガキだけではなく紙としての価値を見いだすべく質の高い製品を目指すこと、労働としての幅を広げるためにケナフを利用した紙すきも視野に入れて、今、情報を集めているところです。

(第二けやき作業所)

開所してから一年が経過し、登録者数が一〇名を超えました。就労支援では第二けやき作業所で食べる給食の調理業務を六月から実習をはじめ八月から正式に開始しました。これまで休みがちであった利用者が休まずに通うようになったり、将来喫茶店を開くために料理を覚えたいからと目標ができた利用者もいますし更に給食を始めたいと希望している人もいます。生活支援では前年度から一人暮らしを始めた方やこれまで単身生活を送っていた方がけやきハウスで生活実習の利用者と一緒に暮らし始めてみようと第一けやき作業所は芳賀郡内の数少ない社会資源として地域の方や行政・医療機関と連携を深めながら稲毛田の地に根付いたものにして行きたいと思います。

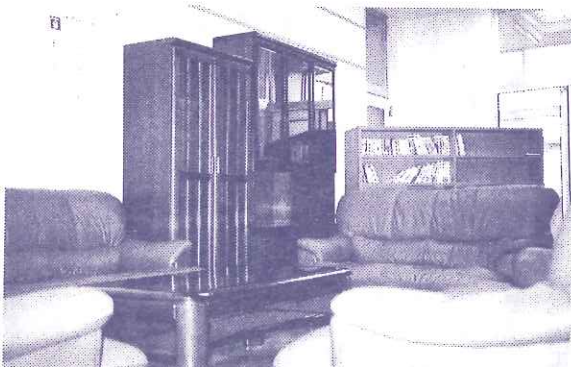


▲青く広い空の下の作業所です。

会資源として地域の方や行政・医療機関と連携を深めながら稲毛田の地に根付いたものにして行きたいと思います。

(ライフサポートセンター)

平成一三年一〇月一日に開所して早くも半年が経過をしました。生活相談、日常生活支援を中心に活動と合わせて、地域にて生活をしている在宅精神障害者の掘り起こしも重点課題の一つとして行ってきました。その中で約一五名の在宅精神障害者の方々と知り合うことができました。精神分裂病(統合失調症)の発生率は(世界的に)一%と考えられていますので、芳賀郡一市五町の人口が一四万人ですから、まだまだ多くの障害を持っている方が芳賀郡の中にいるのではないかと思われまます。今までに、私たちが出会った方々はその中のほんの一握りではありますが、私たちがまだまだ地域の社会資源が充実している状況ではありませんが、これからさらに多くの在宅の方々と知り合う中で、それらを有効に活用し、時にはつくりだしながら、豊かな地域生活を過ごして頂けるよう努力していきたいと考えております。



▲ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。

方々と知り合う中で、それらを有効に活用し、時にはつくりだしながら、豊かな地域生活を過ごして頂けるよう努力していきたいと考えております。

おむすび

保護者
リレートーク

今回はけやき作業所に通っている綱川倫行さんのご家族の登場です。

〈小さい頃は どうでしたか?〉

小さい頃は動きが活発ではらはらさせられたことがあります。生き物が大好きでよく田んぼのカエルを捕ったり小さなへびを手を持ち大切にポケットに入れていたりもして、びっくりさせられたことがあつたことを覚えています。

〈学校時代は?〉

小学校三年生から中学三年までは益子養護学校に通い、その後は栃木養護学校の寄宿舎から高等部に通い無事卒業できたことに感謝しております。また、学校時代は今とは想像もつかないほど動きが大きく、心配したこともありました。性格はやさしい子なので学校の先生に大変良かわいがってもらいましたことに、感謝しています。

〈けやきに入ってから〉

けやき作業所に入るまえには、こぶし作業所に実



〈将来は?〉

習生としてお世話になり当時は四ヶ月位はベアリングの作業に集中せず田んぼや畑のほうに気になっていたこともありましたが、みるみる内に仕事に集中できるようになり作業所の取り組みが倫行に合うことができたようです。

自分達が元気な内は家庭で過ごせるようにしていきたいと思いますが、親なき後のことは誰しも心配でもありますが、これからは、同じ悩みを抱えているお母さん方と一致団結して地域で暮らせる場をつくっていかれたらと思います。

お忙しいところ取材にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

4月こよみ

こぶし作業所 (予定)

- 4月1日(月) 辞令交付
- 4日(木) 職員会議
- 18日(木) 支援会議

けやき作業所 (予定)

- 4月9日(火) 支援会議
- 13日(土)PM 合同職員会議
- 23日(火) 支援会議

デイサービスセンター (予定)

- 4月2日(火) 支援会議
- 13日(土)PM 合同職員会議
- 23日(火) 支援会議

第2けやき作業所 (予定)

- 4月3日(水) 支援会議
- 13日(土)PM 合同職員会議
- 24日(水) 支援会議

ライフサポートセンター (予定)

毎週水曜会議

セルフ・みらい (予定)

- 4月1日(月) 出発(たびだち)の会
- 13日(土) 職員会議



ちよつとひといき

けやき作業所 デイサービスセンター
加藤 真博

● 掲 示 板 ●

セルフ・みらい建設のための 募金にご協力ください

施設を建設するためには、多額の資金が必要になります。国や県から補助を受け、又、公的な融資制度を活用しても約1,700万円の寄付・募金なくては、施設を建設できません。

そのため、皆さまには、私たちの施設づくりの趣旨をご理解いただき、施設建設募金へのご協力を心よりお願いいたします。

募 金 要 領

1口3,000円です(何口でも結構です)

募金をしてくださる方は

●事務局または作業所にお持ちくださるか、下記までお電話いただければ幸いです。

事務局(佐護方) 0285(84)6181
けやき作業所 028(687)1040

●ご送金(郵便振込)の場合は、所定の振替用紙をご使用いただくか、下記へお願いいたします。

郵便振替 口座番号 00140-9-558846
みらいの会

ボランティア 募集

こぶし・けやきで
楽しく仕事をしませんか

内容 こぶし作業所
けやき作業所
デイサービスセンター
第2けやき作業所
(作業所で仲間と一緒に仕事を
して下さる方募集しています。)
キッチンセルフ
厨房・フロントでお手伝いし
ていただける方
ときわ荘
日中のそうじボランティア
すずらんの家
夕食づくりボランティア

きょうされん
賛助会員募集
連絡は栃木支部事務局
けやき作業所へ

こぶし作業所・けやき作業所
後援会会員拡大にご協力をよろしく
お願いいたします。



ふふふせっけん

好評発売中!!

粉石鯨 1.2キロ入り 240円
固形石鯨 2個入り 100円



第25次
国会請願署名・募金に
ご協力
をお願いいたします。

お問合せは
各作業所まで



にこにこパン屋さん

各種豊富に取りそろえて
おります。注文票をFAX
にてお送りしますので、
お気軽にご連絡下さい。

けやき作業所
直通電話兼FAX
028(687)1788へどうぞ。

